

令和4年度第2回 新潟市男女共同参画審議会会議録

日 時	令和4年11月29日(火) 午前10時～正午
会 場	新潟市役所本館3階 対策室2・3
出席者 (委員10名)	有森委員、五十嵐委員、大堀委員、嘉代委員(代理出席:門間氏)、川口委員、近藤委員、杉原委員、田中委員、棚村委員、原委員
傍聴者	1名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事 第4次男女共同参画行動計画実施事業評価(令和3年度実施事業)について 3 その他 4 閉会
事務局	<p>ただいまから令和4年度第2回新潟市男女共同参画審議会を開催いたします。本日は、皆様お忙しいところご出席いただきまして、大変ありがとうございます。男女共同参画課の土沼が本日の進行を担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ここで、本日の審議会の出席状況をご報告いたします。荒木委員、西條委員に事前にご欠席の連絡をいただいておりますが、本日急遽、山際委員、内山委員がご欠席という連絡をいただいております。あとは今、五十嵐委員が到着をされてないという状態です。そして有森委員はリモートで参加しておられます。そうしますと会場の出席の方と合わせまして14人の委員の皆様のうち9名のご出席となっております。この審議会は新潟市男女共同参画推進条例施行規則第15条第2項により、委員定数の半数以上の出席をもって開催することとなっておりますので、会議は成立しておりますことを報告いたします。</p> <p>なお、会議録作成のために会議の内容を録音させていただきますので、ご了承いただければと思います。</p> <p>今、五十嵐委員ご到着のようですので、少しお待ちください。</p> <p>それでは、ご到着になりましたので、五十嵐さん、ご到着早々恐縮なのですが、今年度初めてのご出席ということで一言頂戴したいのですけれども、よろしいですか。申し訳ございません。</p>
五十嵐委員	<p>前回、欠席させていただきましたが、今回が初めてということなのですが、新潟商工会議所の五十嵐と申します。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>どうもありがとうございました。それでは、男女共同参画課長の笹川よりごあいさつ申し上げます。</p>
事務局	<p>皆さん、おはようございます。新潟市男女共同参画課長の笹川でございます。今日はお忙しい中、第2回新潟市男女共同参画審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。本日は、第4次の新潟市男女共同参画行動計画の令和3</p>

	<p>年度実施事業についての評価（案）をご審議いただきます。本日、資料2としてお配りしておりますけれども、7月に開催した第1回審議会後に委員の皆様からご提出いただきました成果、課題や指標の達成状況などを基に評価部会の皆様から資料1のとおり審議会としての第3次評価及び総評の案をまとめていただきました。近藤委員、杉原委員、田中委員の3名の評価部会の皆様には当初2回の予定だった部会を3回開催し、また持ち帰りでの作業も多かったのですが、本当に精力的にご検討いただきました。改めましてお礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>本日、委員の皆様にはこの評価部会案を基に審議会としての評価をまとめていただきたいと思います。短い時間ではありますけれども、活発なご意見を頂戴できればと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。事前にお送りしました資料は、会議次第、次に各資料の右肩に資料番号が入っておりますけれども、資料1が評価部会の皆様から検討いただいた第4次男女共同参画行動計画事業評価（案）でございます。そして、資料2が第1回の審議会後に委員の皆様から提出いただきました令和3年度の実施事業に対する成果と課題をまとめた、令和3年度に実施した市の施策への各委員の評価でございます。もう一つが、以前お配りしました第1次評価のうち差し替えがあった部分の2ページでございます。</p> <p>本日、机上配付させていただきましたのが委員名簿と座席表です。本日ご欠席の連絡がございました内山委員と山際委員につきましては修正をさせていただければと思います。不足等はないでしょうか。</p> <p>これより、次第に沿って議事に入らせていただきますので、進行を大堀会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
大堀会長	<p>会長として今日も審議会を進めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>会議次第の2、議事「第4次男女共同参画行動計画実施事業評価（令和3年度実施事業）について」です。最初に事務局から評価部会での審議について報告させていただきます。その後、目標1から順に一つずつ審議をしていただきますので、そちらでご意見をいただいて決議をしていきたいと思っています。今日は2時間、12時までを予定しておりますが、この評価の皆さんの意見をまとめて完成させたいなと思っていますので、どうぞご協力のほどよろしくお願したいと思います。</p> <p>本当に評価部会の杉原さん、田中さん、近藤さん、3度も実績評価から、また委員の皆さんの意見をまとめ、その3人でいろいろ揉んでいただいて、私も評価部会の経験があるのですが、言葉に表現してまとめていくというのは非常に難しいことだったなと思いますので、本当にありがとうございました。今日も質問等が出るとしますので、そちらのご回答も含めてご協力のほどよろしくお願したいと思います。</p> <p>それでは、目標1の審議に移りたいと思いますので、よろしくお願いたします。事務局のほうから評価部会での審議内容の報告ということで、まずご説明をお願いします。</p>

事務局	<p>改めまして、男女共同参画課の杉澤と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>審議評価部会での審議内容について報告させていただきます。8月23日、9月22日、10月20日に評価部会を開催し、近藤委員、杉原委員、田中委員の3名で検討していただきました。検討の流れですが、まず第1回の審議会後に委員の皆様からご提出いただいた令和3年度事業に対する成果と課題に基づき、評価部会の3名で審議を行い、まとめたものが本日の第3次評価（案）となります。</p> <p>評価部会では、各委員の意見を一般論的にまとめすぎず、記述している具体的な内容を取り入れること、成果目標が下回っている場合、その記述と今後の取り組みの必要性を入れることなどを意識しながら評価（案）を作成いただきました。</p> <p>1から6までの目標ごとに評価部会での審議のポイントをご報告いたします。まずは目標1についてです。アルザにいがたや公民館などでオンラインを活用するなど、コロナ禍で工夫しながら各種講座を開催したことを評価いたしました。一方で、成果指標となっているアルザにいがた主催講座参加者満足度は目標よりも低かったため、関心の低い層への啓発のほか、さらに理解を深め、問題解決に向かう行動の必要性について、またアルザにいがたと公民館の連携についてを記載しております。成果指標「男女平等教育パンフレットを活用した保護者啓発」について、特に中2保護者への啓発についての推進に努める必要性を記載いたしました。</p> <p>続いて、目標2についてです。成果指標である女性委員のいない審議会等の割合がゼロとなったことを評価しました。市職員も管理職における女性の割合があまり増加しなかったため、積極的な登用に努めるべきと記載いたしました。防災分野での女性参画を評価しました。一方、自治会長、町内会長の女性比率が少ないことを課題として記載しております。</p> <p>続いて、目標3についてです。民間企業の女性管理職比率が計画策定時を下回ったことを課題として記載しました。入札時の加算などの企業への働きかけを評価し今後、増加させる取り組みが必要であることを記載しました。</p> <p>目標4についてです。成果指標、男性の育児休業取得率が上昇していることを評価しました。官民協働でワーク・ライフ・バランスについての取り組みを進めることの必要性を記載いたしました。家事、育児、介護への取り組みに対する評価や課題を記載いたしました。</p> <p>目標5についてです。学校教育での段階的な性教育や思春期の保護者を対象とした講座など、性を理解、尊重するための啓発を評価いたしました。女性のライフサイクルに沿った取り組みの充実に対し、セクシャリティ以外の健康や身体に関する施策について、女性の視点が弱いことを課題として記載しました。高齢者や男性への取り組みの必要性を記載しました。ここで後ほど目標5の審議のときに確認したいことがございまして、棚村委員のご意見の中に、「生徒の内面に届くような」という記載があったのですけれども、そこら辺はどういった意味合いなのかということで評価部会の中で確認したいということがあったので、後ほど目標5になったときに少しその内容についてお話しいただければと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>続いて、目標6についてです。若年層を含む暴力根絶に向けた啓発活動を評価</p>
-----	---

	<p>しました。同性間や男性、未成年への被害など、従来見落とされがちなハラスメントへの配慮、啓発活動の必要性を記載しました。ひとり親をはじめ、生活上困難を抱える女性に対する支援を評価しました。</p> <p>総評は後ほど説明させていただきたいと思います。目標1から目標6については以上となります。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございました。また、この辺は目標1から順次やっていくときに報告いただいたものを参考にしながら、また審議していきたいと思います。</p> <p>早速ですが、目標1の審議に移ります。事前配付もあると思いますので、ご意見ある方はいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。棚村委員、お願いします。</p>
棚村委員	<p>棚村です。目標1の「理解を深める」というところになるのですが、少し話が長くなるかもしれませんが、先日、私は男女共同参画の講座で、ある女性の防災士さんの取組みを聞く会に出させていただいたので、そのときに思ったことなのですが、参加者にとってはテーマが防災というところがあって、男女共同参画はそれに付随する、みたいなイメージで参加されている方がいたので、その後、アンケートの中でどういうふうな結果が出ているか分からないのですが、防災に関しての講座としても今一つ深く入れなかった、男女共同参画だったのかどうかというところも曖昧みたいな、中途半端感を私の中では持ったのです。なんとなく気づいてもらうという「気づきを促す」という点では、テーマとしてはありだったかもしれないのですが、そこにアンケートの中で「満足度が低い」というところの部分につながっているのかなというふうにも思いました。それで、アンケートの取り方にも私は今一つ、もう少し工夫が必要なかなと思いついて、「今日の講座はいかがでしたか」という、その曖昧な「いかがでしたか」ということではなくて、そこにも直球で「男女共同参画社会というものをどう感じますか」というような、そういうところの部分で入れていったほうが、男女共同参画の講座のためのアンケートというように明確なものがあったほうが、「今日はそういう会だったんだ」というふうに改めて気づいてもらえるというか、何点か気づいたことがあったので、そういう意味合いでアンケートの取り方にも工夫が必要ではないかなと思いました。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。今回の審議会の意見というか、参加されてみての意見だと思しますので、これは男女共同参画課のほうで受け止めていただいて、アルザの講座で、こういうご意見があったよということで、少し見直しをしていただくか、検討していただくということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、この評価に関して、評価部会が作っていただいたもの、事前配付のあった3ページから4ページにかけてのところで、そのほかご意見ないでしょうか。</p> <p>本当に私も見ていましたけれども、素晴らしくまとめていただいているなというふうには思っているのですが、では目標1については、こちらでもよろしいでしょうか。</p>
田中委員	<p>今の棚村委員のご意見は、とても大切なことだと思うのですが、今回の</p>

	この評価には載せるということの検討はしなくて大丈夫ですか。今、このままではスルーになってしまうけれども、プラスアルファで載せたいというふうなご意見だったということではないのでしょうか。
棚村委員	まあ、そうなると面倒なことにはなりますけれども。
田中委員	でも、面倒だけれども、それをスルーしてしまうと多分、次の機会もないかもしれないので、もし本当に大切なことだと思っていらっしゃるのであれば、今、皆さんのご意見も聞きながら。アルザのところに二つありましたが、要は講座の作り方で、もっと男女共同参画をいろいろなことで前面に出したらいいのではないかとということ、アンケートにもっと男女共同参画について尋ねるような文言があったほうが良いというふうなご意見ですけれども。
棚村委員	そうですね。そこがものすごく集約すると、いちばん最初の丸の「連携して効果的な意識啓発を進めるべき」という、そのところに全部収めてしまえることでもあるのかなとは思いますが、具体的に例えば「テーマの持ち方、アンケートの取り方など」みたいな形で入れていただけるのであれば、それでもいいかと思えます。
近藤委員	今、棚村委員のお話を伺ってしまして、確かに防災への男女共同参画の視点というのはとても弱いと思います。それで東日本大震災なんかでもかなり防災に関して女性の視点を入れていきたいという、入れていかなければいけないということやっているとありますが、やはりまだまだ足りないのではないかなと思っております。 それともう1点、アンケートのことなのですが、講座でもいろいろアンケートを取ると思うのですけれども、そのアンケートの結果をやはり活かしていくということはとても大事なことはないかなと思いましたが、もし入れられるのであればというふうに私も評価委員で、これを3回審議させていただいたのですが、防災についてはとても大事なお話だなと思いました。
大堀会長	ありがとうございます。事務局のほうから確認なのですが、棚村さんが参加された講座はわかりますか。どんな講座か。あとで聞かないと分からないですよね。いつのどういう名前の講座ですか。
棚村委員	南区のラスベックで。
事務局	分かりました。私も見に行ったので了解しました。そのアンケートということでしたね。
棚村委員	そうです。
棚村委員	今、近藤委員がおっしゃった防災士の講座をすることについては何の問題もないですし、それ自体は進めていただきたいと思うのですけれども、防災士の活躍をテーマにした男女共同参画の意識啓発のための講座なんだよということをもう少しアピールするような、そういう進め方が必要なのではないかなというふうに申し上げたいです。
大堀会長	個別具体的に一つ一つピックアップして見直しを、この審議会でやるというわけにはなかなかいかないのですけれども、今ご意見いただいた分に関しては、も

	<p>う一度、男女共同参画課のほうで確認していただいて、アンケートを見直すなり何にするなり、ご指摘があったものですから棚村さんとやっていただいて、なぜそういうことを言うかという、この審議会はアルザ全体の活動であったり、数がかかなり多い中の、それを集約しての評価なので、一つにピックアップして悪いものもありますけれども、いい部分もありますので、それを併せ持った評価を今回していただいて、それに対して審議ということなので、一つをピックアップして全部書いてしまうと全体評価になってしまうのですよね。そこはちょっと難しいところだと思うので、今回、棚村委員のおっしゃっていただいたのはすごくいい指摘だと思いますので、ぜひそこをまた課のほうで検討していただいて、意見としていただくということで委員のほう、そんな感じでよろしいでしょうか。</p> <p>そのほかは、皆さんなかったということで、目標1の審議に関してはこれで皆さんご了解いただけますでしょうか。</p> <p>（「異議なし」の声）</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、目標2について、配付資料の7ページのところですが、これに関して皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。女性委員がいないという審議会がなくなったということで、いい報告もありますし。先ほどあったとおり、防災というところもこの目標2のところに入ってきておりますので、防災士も徐々に増えてきているということで、非常に素晴らしいかなというところの活動になっておりますが。いかがでしょうか。</p> <p>これは私から質問というか、評価部会では多分、市のほうにも確認しているのではないかなと思うのですけれども、例えば自治会長、町内会長の女性割合が増えてきているというのは、何か施策はあるのでしたっけ。</p>
事務局	<p>私どもでやっていることとしては、コミュニティ協議会の会長さん宛に女性の登用をお願いするような文章を出したり、少し離れますが自治協議会の会長さん宛にも同じようなことを書かせていただいたりしているところで、女性の登用をお願いしますというような文書を出すことはしております。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。全然男女共同参画のことと関係ないかもしれないのですけれども、自治会等の高齢化の問題というのは、この課でやっているわけではないのですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
大堀会長	<p>多世代交流とか、よく言うではないですか。非常に難しいですよね、女性割合は増やしたいのだけれども年齢層のところを見ないというのはどうしたらいいのだろうね、正直言って自治会、コミュニティ協議会は、すごく高齢化しているのですよ、多分、そっちのほうの問題だなと私も携わって思っているのですけれども、そこは男女課は関係ないのですよね。関係ないといってはあれかもしれないけれども。</p>
事務局	<p>そうですね、ちょっとほかの課での担当部署で取り組んでいると思うのですけれども、男女課では、そこまでは踏み込んでおられません。</p>
大堀会長	<p>なるほど。これは意見なのですけれども、男女課とほかのところが多世代交流</p>

	<p>や高齢化の問題等、本当にコミュニティ協議会や自治会は役員さんほとんど高齢の方で、この間PTAでも話していたのですけれども、結局、防災のときに高齢者のメンバーしかいないのです。多分、この女性割合の女性防災士も結構上の方が取っていたり、若い方が入っていないので、現実問題、本当に防災になったら活躍できない人ばかりなのですよね。この間、村上の災害があつて、私がやっている福祉の施設がちょうど荒川の間際だったので水が上がったのですけれども、坂町病院等あの辺は大変だったのですけれども、やはりボランティア数が足りないのです。特にあの地域は高齢者だらけで、隣も助けられないみたいな、社会福祉協議会でボランティアを受け入れてなんとかうまくやっていただきましたけれども、コロナになればなるほど地域でなんとかやらなければいけないし、外からもあのときも受け入れしなかったのですけれども、やはり足りなくなるので、できるだけ女性ももちろんなのですけれども、若い世代を自治会、コミュニティ協議会、防災というところ、PTAも交じって防災をやったほうがいいよね、みたいな話もしているのですけれども、何かしら多分、策はあると思うので、若い人たちが参加しやすいような、また女性や参加しやすいようなという観点は多分、似たようなアプローチだと思うのですよね。ここをちょっと勝手な意見ですけれども、ぜひ男女課とほかの課になるのかなとは思っているのですけれども、そこを地域のためにやっていただきたいなど。どういうふうにやればいいのかは私は分からないのですけれども、ぜひやっていただきたいなと思いました。</p>
棚村委員	<p>お聞きして今、思ったことがあつて、それって多分、市民協働課とか、そういうところの話になるのではないかと思うのですが、私も実際、コミュニティ協議会の役員をしたりしているのですけれども、ここに書いてある自治会長、町内会長の女性比率というふうに言ってしまっているのかと思うのですが、なんでも長を女性にすればいいという考え方だけでも、それもどうかというふうに思って、自治会、町内会への女性の参画というか、別に長ではなくて、どんどん自治会や町内会の活動に女性が入ってきてほしいというふうな目線から、まず始めるというのも必要かなと思っていて、そもそも今、自治会長、町内会長はなり手がなくて、くじ引きで決めるとかというところも多くなっているのです、そこで別に長にこだわらなくてもいいのかなと今、お聞きして思ってしまった。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。でも、さすがに役員男女比率までは多分、調べていないのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>この自治会長の女性割合というのは、一応、参考指標ということで今回なっていて、女性の参画割合となると、さすがになかなか把握するのは役員名簿等を見なければ分からないとは思っているのですけれども、長に関しては、なんとかこちらのほうで把握はしている部分ではあるのですけれども、女性の参画割合というところ、今のところは把握できていないのが現状です。</p>
大堀会長	<p>把握しようとする結構大変ですよ。</p>
事務局	<p>恐らく私のイメージからすると、まずコミュニティ協議会の女性だったら把握はできるかなとは思っているのですけれども、自治会となるとすごい数があると思うので、その名簿の提出を促すということになってきてしまい、なかなか厳しいものがあるかと思うのですけれども。</p>

大堀会長	でもアンケートみたいな感じでやる分には、そんなに。個人情報も取らないし、「だいたい何人くらいですか」みたいなものは可能なのですか。
棚村委員	新潟市の自治会は、すべての自治会が何かしら補助金がかかっていると思うので、各区の総務課のほうで総会資料を提出していると思うのです。そうすると、その総会資料の中に役員の名前として、女性っぽい名前の方とかいろいろいると思うのですけれども、提出している中で、なんとなく把握はできるのではないかなとは思いますが、先ほどコミュニティ協議会向けに「役員に女性を増やしましょう」というおたよりがあると伺ったのですが、一回、自治会向けに何百あるかは分かりませんが、出してみるというのもいいかもしれません。
大堀会長	ほかに。今の把握できたらいいよねと。それは具体的にできるかどうかは別として、評価として、例えばアンケートを実施するなり何らかの方法で、自治会やコミュニティ協議会の長ではなくて役員等の比率を把握してほしいみたいな感じで書ければ、できるか、できないかは別として審議会からの提言にはできるのではないかなと思っているのですけれども、いかがでしょうか。
田中委員	私の地元の町内会の印象ですが、役員の名前は男性でも実際に動いているのは女性なのですよ。なぜか知らないけれども、班長でもなんでもだいたい男の人が名前を書きますが、実際に自治会の仕事に行って動いているのはほぼ女性です。これは私の狭い世界だけの話なので果たしてどうなのかは分かりませんが、冠はついているのは男だけれども、連携を取って仕事をしたり、実際、各戸を回っているのは、私の印象ですけれども97パーセントくらいは女性だと思います。ですから、名簿だけ確認しても結局分からないので、やるなら本当に、こういうことはできませんけれども、具体的にピックアップして何か所か自治会に入って実態を調べるくらいのことをしなければならぬのですが、よそはどうなのでしょうかね。なかなか男性が実務をやっているところは、そんなにはないかもしれないという印象があったので、申し添えます。
杉原委員	<p>私も昔、コミュニティ協議会関連の仕事をして、例えば調査しようと思っても答えてこない自治会長さんが結構いたりするので、回収率が何割かは忘れちゃったけれどもというレベルなのですが、私があるときにいろいろ調査したときも、やはり要するにおばあちゃんたちというのですか、そういった方たちがむしろ活動していて、名前は別として、みたいな、やはり実態はそういうところは結構あったりします。あとはお母さんたちが子どもつながりで活動するとか、そういったところもありましたし、自治会で旅行に行くと、結局女性ばかりだったとか、そういうふうなこともあったりします。なので、私はやはりこういったコミュニティ活動という現実と一生懸命働いているのは女性というか、避難所でもそうなのですけれども、やはり問題は意思決定とか、その部分はやはり女性は力がないというところがあるので、それでこういう管理職とか長とか、そういったポジションの話を入れてくるというのは、やはり必要な視点なのではないかなと思いました。</p> <p>それから、施策1に戻るのですけれども、いちばん最後に「ジェンダー統計の収集を行うことが重要である」とあるのですけれども、これも評価部会でやはり出た意見で、今、皆さんがお話しされたように、現実、実際どれくらい、どこに</p>

	<p>女性がとか、男女の比率はどれくらいとか、そういうものを取るというか意識する、そういった観点から、やはりこういう実際に現実、どの程度の男女比とか、そういうものを取るのには必要ではないかということを一応入れたのと、またこれも施策1の話なのですが、施策1で棚村委員がいろいろな講座のステップアップが必要だとか、いろいろなところの連携が必要だとか、そういった意見を書いてくださって、評価部会の中でも連携とか情報交換が必要だろうということを実ん中に入れて、先ほど会長が言われた、いろいろな部門でもっと連携したり、協力したりしていくことは必要なのではないかという意見は非常に大事だと思うので、どこにどう入れるか分からないのですけれども、一応、評価部会で1のところの真ん中くらいに、「庁内の異なる部署において情報交換を進める」という、曖昧な書き方なのですが、こんな感じで一応入れたという感じになっています。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。説明も非常にありがたかったです。では、今のご意見、確かにごもっともだし、現実問題、そこまで調査して効果がある施策を提供、自治会が本当に正確に分かったとしても定点で取っていったとしても、実際、出る人が違っていたりとかということで、曖昧なデータであれば、やはり今、杉原委員がおっしゃられたとおり、まずは長をしっかりと自治会長、町内会長の長の数をまず比率を見定めて、その自治会をまとめる人たちの意思決定、マネジメントのところやはりもっとももっと増えなければいけないよねというところで収めておくのがいいのでしょうかね。それが現実性なのかなというか、私もちょっと多世代の部分が気になっていたの、今お話しさせていただいたのですけれども、そこまで確かに私は必要ではないのかなというふうには思いましたけれども、いかがでしょうか。要は今の目標2のところの、このとおりでいいのではないかなというところで収めたいなと思いますけれども、いかがでしょうか。</p> <p>では、そのほか目標2に関して、ご意見・ご質問はないのでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>そもそもで申し訳ないのですけれども、初めてで大変恐縮なのですが、市の防災士会というのは、どういう人たちが、どういうふうに入っているのか分からなくて、できればご説明をいただければありがたいのですけれども。</p>
大堀会長	<p>事務局から防災士、女性防災士のところですよ。</p>
五十嵐委員	<p>そうですね。市防災士会というものがあって、女性会員が前年より増加したというふうにあるのですけれども、もともとの市の防災士会というものはどういう方々が入っていて、どういう人が資格があるのかよく分からなくて、大変恐縮なのですけれども教えていただければと思うのですが。</p>
事務局	<p>防災士会について、私も直接的には分からない部分ではあるのですけれども、前にいた所属で担当の者に聞いたことがある範囲の話になってしまうのですけれども、所属するコミュニティ協議会単位になるか、自治会単位になるのかなのですけれども、希望する方が講座を受講して、1日講座がありまして、それに行くと受講すると防災士の資格が得られるようになって、防災士の集まりがまた区で年1回くらい、私の南区の話になってしまうのですけれども年1回あって、そのときに集まったり、あとは先ほど棚村委員がおっしゃられたような研修会があったりをしているようなところで、全体的に把握はしていないのですけれども、あとは女性の防災士が集まった会が別で結成されていたりであるとか、そういった</p>

	別の取組みもしているようです。私の知っている範囲で申し訳ありませんが、その辺になります。よろしくお願いします。
五十嵐委員	ありがとうございます。そうすると講座を受けることが前提という形になる感じなのではないでしょうか。その中ではやはり女性の方もいっぱい受けていただきたいというような意向であるという感じでいいのでしょうか。増やすという部分からすると。
事務局	そうですね、女性の方に受けてもらえれば、女性の防災士が増えていくということになりますので。
五十嵐委員	じゃあそれを広めていかないと、なかなか増えていかないとことですよ、そのメリットというか、防災自体の講座を受ける意義というのを、やはり広めていかないと、まずいのかなというふうには感じたのですけれども。すみません、余計な話をしてしまいました。ありがとうございました。
原委員	皆様のお話を伺っていて、まったくそのとおりだなと思いながら聞いております。その中で、先ほど比率の部分のお話なのですけれども、例えば目標2の成果指標、それから参考指標を見ると、ふと思ったのですけれども、例えばいちばん上の審議会等における女性委員の割合というところ、委員の割合が45パーセントで、いわゆる裾野を広くするというところの指標はちゃんと出ていると思うのですけれども、ほかの小学校や中学校の校長先生、教頭先生の割合とか、今、話題になっている自治会長さんの割合等ということになってくると、先生たちおられるように徐々に頑張っている女性の方が裾野として広がり、数が多くなれば自ずと長になっていく人が増えていくのだらうと思うので、長の数字ありきを前面に押し出しすぎるより、そもそももっと学校の先生にいろいろな意味でなりやすくなるとか、先ほどおっしゃったように実態と違うのかも分からないという部分も含めて、もっと自然に自治会、町内会に女性が入りやすくなるとか、そういった裾野を広げると自ずと割合も高まっていくのかなと思ったので、その辺がうまく現実感のあるようになっていければいいのかなと、感想めいたお話で恐縮でございますが、以上です。
大堀会長	原委員、ありがとうございます。本当にそういうことですよ。原委員のご意見は、この評価において何か追加をしようかという意味合いではないのですよね。
原委員	ご参考までにしていただければ。
棚村委員	細かくて申し訳ないのですけれども、今、「自治会長・町内会長の女性比率が少ないことは課題である」のそのあとなのですけれども、今、原委員もおっしゃったように、要するに裾野を広げるという意味では、女性が参画しやすいような雰囲気を作って、「女性が参画しやすいような、そういう取組みが必要であり」というような、一つ文言が入ったほうがいいのではないのでしょうか。
大堀会長	なるほど、そうですね。評価部会でこの辺、追加をしてみようというようなご意見はありますでしょうか。
田中委員	特には出ていない。裾野を広げるという意味合いで言うと、例えば小学校なんかは実際は女性の先生がすごく多いのですよね。小・中は結構女性の先生が多いのですが、なのになぜ教頭先生、校長先生が少ないのだらうということ、あとは学

	<p>歴が高校や大学等になると、今度だんだん女性の先生が少なくなってくる、これも何なのだろうと、単純に裾野を広げるといよりも、女性はアンコンシャス・バイアスみたいなものが非常に世の中にあって、それが一つは女性がリーダーにならない、男性がリーダーなのだということが、まだいまだにあるのかもしれないし、例えば理系だったり、より高学歴的な学びの場には男性のほうが多いのが当たり前なんだみたいなものがいまだにあるということが問題であって、その意識を変えるという部分を恐らく目標1の部分、もっと男女共同参画であったりの部分で、どう意識を変えていくかということなのかなとは思いました。</p>
大堀会長	<p>確かに、そっちのほうはそういった意味では入っているよということですよ。</p>
田中委員	<p>そこが全然足りないわけですよ。</p>
杉原委員	<p>やはりこのポストの話は育てるといことも非常に大事ということと変なのですが、確かに私もコミュニティ協議会に出てきている人で、ものすごい活発な方がいて地域のリーダーという方がいらっしゃって、そういう人はちゃんとポストがついているから、確かにとは思いますが、市が掲げることによって、やはりそういったアナウンスメント効果ではないのですけれども、もっと育てようか、みたいな意識が芽生えていけばいいのかなと。自然に放っておくと今までのものがずっと変わらない。多分、自治会長等もほとんど数字が上がらないのですよね。言い方は変なのですが、そういう現実があるので、もっと「この人いいから、この人をもっとあげよう」という、こういうふうな機運がもっと出ると人材も活発に育っていくし、よいのではないかなという意味で、こういうふうなことを入れたというところがあります。</p>
大堀会長	<p>要は、「具体的に効果のあった事例など」というのは、そういうものが入ってくるわけですよ。確かにうまくいっている自治会や元気がある自治会であったり町内会は、全部が全部、今、疲弊しているわけではなくて、本当にリーダーシップをとってやってくれているところも聞いたことはあるので、女性比率が上がったり、若年層が入ったりすることが今後、望まれるかなということで、いい事例があったら情報交換してねというところが、この評価のところに入っているわけですね。</p> <p>ありがとうございます。あまりいじらず、修正する必要がないのかなというような結論になったような気がします。ご意見は本当にありがたいご意見なので、今後ともまた審議会等でも議論していきたいなと思っています。</p> <p>それでは、目標2に関しまして、この評価でよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>いろいろご意見ありがとうございました。</p> <p>それでは、目標3に移っていききたいと思います。「働く場における男女共同参画の推進」ということで、9ページの下から10ページにかけて評価をしていただきました。これに対してご意見・ご質問などありましたら、よろしくお願ひします。いかがでしょうか。</p> <p>指標には出ていないのですけれども、私も建設業をかじっているのでも聞きたいのですけれども、入札のときの企業評価の加算ですよ、要は入札参加をするに</p>

	<p>あたっの評価をしていますよというところは、ずっと今やっているとすけれども、プロポーザルや入札で「女性技術者の配置を要件とした入札は対象件数を増加させるための取組みが必要です」と書いてあるのですけれども、例年、何件ずつくらいやっていますのですか。去年は4件でしたっけ。建築1件、土木1件ですよね。それはずっと同じですかね、今までだいたい。令和2年、令和元年というのは。</p>
事務局	<p>私も今、会長がご覧になっている今年の一次評価でいうと55ページだと思のですけれども、令和3年の実績は今おっしゃるとおりで、建築1件、土木1件というところまでは確認できたのですが、経年で過去どうだったかというのが、申し訳ありませんが今持ち合わせがない状態です。</p> <p>今、1年前の令和2年の実績を出してもらったのですけれども、それを見ると土木2、建築1ということで、そんなに変わらないのかなという。</p>
大堀会長	<p>そういうことなのです。これを増やす方法は建設業界から反対されるので多分、難しいのですよね。男女共同参画でこういうものをやっくださいねと言っても、そんなに現実問題、これも同じで建設業はやはり男性社会なので、女性比率を上げるのは非常に苦勞しているし、しかも人の雇入れは今、建設業、土木関係は求人倍率は大変なことになっているくらい大変な人が足りない状況なので、そんなこと言っらんないよ、という中で、市が多分、無理に入札件数を女性の技術者と言ったら、もう取れるところがないよねという現実もあるのですよね。多分それで調整していきながらやらなければいけないので、なかなか男女共同参画の視点からいって、増やしたらもっといいんじゃないのというものもあるのだけれども、現実問題、なかなか大変です。一言いかがですか。五十嵐委員。</p>
五十嵐委員	<p>今やはり人材不足がだいが課題になっていまして、その中では専門的な技術を含めて取り合いになっているのではないかなという話が出ております。建設業、製造業もそうなのですけれども、その中で女性の比率を上げる、上げたいという部分はあるのでしょうかけれども、なかなかそこまで気が回らないのが現状なのかなというふうには思っております。</p> <p>最近の話によると、製造業で先般お伺いしたところでは、女性の雇用を製造業でしたいという話をしていたのですけれども、なかなか自分のところにハローワークに出しても来てくれないという話もございまして、逆に採用しようとしてもなかなか来ないというのが現状のような形にはなっているようです。ただ、業種によって違う部分もあるかもしれませんけれども、それが今の状況かなと思っております。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。私も増加させるように頑張っねというように書くのは絶対必要だと思のですよ。でもなかなか難しいのかなというのもまた現実で、「増加させるための取組みが必要である」というものは、このままでいいと思います。すみません、意見みたいな感じで申し訳ないのですけれども本当に厳しい。土木技術者等は、今はお医者さんを探すより難しい感じと言われているくらい大変な業界なので、これからどうなっていくのかなというふうに思いますけれども、すみません、感想みたいな話で申し訳ないです。</p>

	<p>そのほかに、ご意見・ご質問ないでしょうか。</p> <p>それでは、目標3に関しては、こちらでよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>それでは、目標3は、こちらの評価で決定していきたいと思えます。ありがとうございます。</p> <p>続きまして、目標4「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進」というところです。そちらの評価をしていただきましたが、こちらをご覧になって、ご意見・ご質問ある方はいらっしゃいますか。</p> <p>男性の育休が一気に増えてきたので、こちらも相乗的に目標4に関しては非常にいい成果が出始めているのかなど。施策によって増えているのか、社会的に増えているのかというのは、はっきりはしないところではあるのですが、機運は本当に私の活動も男性の父親支援なので、非常に機運は変わってきたかなというふうに思っています、非常に嬉しく思っているところですが、こちらの評価に関して皆さんはご意見ないでしょうか。</p> <p>せつかなので、川口委員と嘉代委員に聞きたいのですが、なかなか育休が取れない現場なのかもしれないのですが、雰囲気はどんな感じですかね。警察の面や学校面で言うと。</p>
嘉代委員	<p>私の職場も育休を取るよう勧めており、上司のほうから声をかけています。私も部下には声をかけており、取るよう勧めています。</p>
大堀会長	<p>素晴らしいです。</p>
川口委員	<p>学校現場では、やはり母親である女性のほうが最長3年という長い期間も取れるので、非常にそういう部分では働く女性には恵まれた職場であると思っております。男性に関しては少しずつ出てきていることと、ただやはり子どもたちという責任を考えると、なかなかそう簡単に「取ります」と言えない気持ち、責任と言いますか、職務の重さの自覚というか、そんなものもあることと、ただ男性職員もいろいろ制度を工夫して、今までよりも期間を長く取ることができるようになったとか、日数が増えたとか、男性、父親が休める休暇を子どものための自分の時間を作るということの制度が、つい最近もまた周知されてきていますので、期間、種類はさまざまですが、父も育児に参画するということでは出てきているのではないかなというふうに思っております。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。無茶振りでききなり聞いてしまっただけで申し訳ないのですが、多分、全体平均は増えていても、やはり今度は産業ごとであったりとか、そういった面が多分、格差が出てくるのかなと思っておりますので、この辺もよく見ていながら、我々も止まらずに男性の育休が増えていくとワーク・ライフ・バランスが推進されて女性活躍がということで、うまく好循環が生まれてくると思っておりますので、しっかり見ていきたいなと思っております。この辺も意見で申し訳ないのですが、</p> <p>ほかに、ないでしょうか。</p> <p>なければ、この目標4に関しても、こちらで決定をさせていただくということで、よろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>

	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、目標5「性に関する理解と生涯にわたる健康の確保」というところで評価部会から評価いただいております。こちらに関してご意見・ご質問などある方はお願いしたいと思います。有森委員、聞こえていますでしょうか。この目標5に関してご意見はありませんか。</p>
有森委員	<p>ありがとうございます。こちらの目標5というのは、目標1とかなり連動するところがあるのではないかということを書かせていただきました。1番のところは結構、生涯、子どもたちへの教育といったところを重視して評価されているので、5番もその辺の指標は含まれないかなという意図でもあったのですが、今回、総評のところ特にコメントといったことはしなくてよいのかなと思ってはいますけれども、次年度に向けて成果指標がこの三つだけというのはちょっと今後、検討いただいてもよいのかなとは思っております。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。最後にいただいた、確かに指標が三つしかないというところなのではけれども、これも我々審議会で以前から検討していきながら、ちゃんと指標で示していかないと、結局、第2次評価を基に我々評価できないよねということから、できるだけ数値化していきましょうと、定量化でやっていきましょうということをやっているのですけれども、この目標5に関して、そのほか指標を見るというものってあるのですかね、事務局のほうから。いきなり答えられないかもしれないのですけれども。</p>
事務局	<p>その目標設定は前の審議会になるかと思うのですけれども、その場にいなかったもので、何とも言えない部分もあるのですけれども、恐らくそのときに審議された中で、目標5にかかわるもので指標として示していけるものが今回ここに残っているもので、恐らくほかの指標を見ればもっとあるところが、ここは少ないというのは、なかなかその設定が難しかったことの現れなのかなとは思っていて、なかなかこの部分を図るというのは難しかったのかなというふうに思っているし、実際私もそのように感じているところです。</p>
大堀会長	<p>多分、そういうことなのだろうかと今、思い起こすと感じるのですけれども、長いスパンで市民意識調査があつて、その数値によって目標値が決まっていて、またその数年後にチェックしていくというような流れもあるので、この分野に関して、これはもう今回の評価というよりは次回の意識調査とか市民アンケートをするときに検討していただくということで、宿題みたいな感じで受け止めていただけるとありがたいなと思います。</p>
有森委員	<p>ありがとうございます。有森です。少し発言させてください。今回の報告書は指標がこれであったので、これでよいと思うのですけれども、次年度に向けては具体的には、ほかの委員会にも書いてあったと思うのですけれども、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの教育に関する配布をした数ではなく質の問題だと思います。どのような教育の内容を行っているのかといったところがフォローされていないので、それに関しては学校だけが、その教育を担うのではなく、適切な教育をする人材の派遣であるとか、有効な人材の活用がされているかといったようなことを含めたほうが、私は「パンフレットの配布はすべてされました」といったことで学校の先生方の負担だけが増えるような形、あるいは形だけではない、</p>

	<p>実を求めるといったことが必要になると思います。</p> <p>これからの企画については、今すでに大人になっている人たちの問題よりも、確かに議長がおっしゃったように、高齢者の方々にとっても重要ですが、むしろ次世代、子どもたちがこの概念をどのように理解し、実現していけるのかというのが重要になってくるので、そういったところでは私はやはり基礎教育の場が非常に重要になると思いますが、学校の先生方だけがその負担を行うのは現実的ではないし適切ではないと思っています。そういう観点からも、そもそも学校という学びの場が男女が協力して行っているというのが一つのモデルになるわけなので、そういった環境をどういうふうに子どもに見せていくのかといったことも含めたリプロダクティブ・ヘルスの環境づくりの視点が見える指標のご検討を次年度いただけるとよいように感じました。長くなりましたが、以上です。</p>
大堀会長	ありがとうございます。
棚村委員	<p>棚村です。今ほど有森委員がおっしゃったようなことと、それから会の冒頭で事務局のほうから私の「生徒の内面に届くように」というところの部分の説明をという話もありましたので、私もそこだと思えるのですけれども、今、先生も結構大変な中で、性に関する教育をどのようにするのかという若年代のいわゆる小学校、中学校、高校生に対する性に対する理解を深めるための教育活動というものを先生にすべてお願いするというのは、今はもう無理だと思いますし、先生から聞く話よりも私はいわゆる外部の専門職、私の意見のところでは具体的に書かせていただきましたけれども、医師であるとか看護師、助産師、そういう人たちを招いて、外部講師を招いての講座なり授業をすることによって、いわゆる先生の一般的な話ではなくて具体的に画像や資料、動画でもいいのですけれども、インパクトを持って児童・生徒に伝えられるような有意義な時間を過ごすことができるのではないかなと思うので、「内面に届くような」というのは、具体例をどんどん取り入れた形で、それこそそこに1時間で生徒が「ああ、そうなのか」と気づくような時間を持てるような講師を招く必要があるのではないかなと思ったということです。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。そうでしたね。「内面に届くような」というところで、やはり有森委員がおっしゃられたような質の部分等も含めてということですよ。ということは、学校教育においてということで評価をいただいているところの教育の分野は多分、パンフレットが配られたり、先生方がそれを受けて一生懸命勉強して、それを伝えたりとかというようなことになっているのでしょうかね。</p>
川口委員	<p>川口です。授業の中では保健体育という教科、あるいは特別活動といった中で発達に応じて行っております。それから、PTAなどで「命」ということで助産師の方をお招きして親子でというようなこともあるのですけれども、本当に学校の中ですべての教育ができるという時代ではないので、そういった専門の方のお話等も私たちは工夫しながら、より子どもたちが先ほどおっしゃった「ああ、そうだな」で、自分はどうしよう、どうしていこうというような考え、判断する子どもを育てることが必要だと思っています。ただ知識が入っただけでは、先ほど内面とおっしゃいましたが、それを自分に入れて、自分とはか、お友だちに対してはという、そういうふうを目指したいなど、理想ですけれども、そう思いまし</p>

	<p>て、今いただいたようなお話はとても大事なことでと受け止めます。また、それを実際にすることはまた次の段階等がさまざまありますので、工夫や検討や時間の面や他教科とのさまざまありますが、一つの大事な視点だと考えます。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。現場の生の声も本当に聞ける機会によかったです。学校現場の働き方、ワーク・ライフ・バランスもこれからどんどん推進していかなければいけないよねというところと、もっとやってねというところも結局重なってくるところがあるので、多分、これからの時代は先生はもう教育に集中してくださいと。それ以外の面はできるだけ外部であったり、いろいろな支援であったり、そういったものをうまく選択していきながら教育現場を作っていきましょうね、が多分トレンドにどんどんなってくるということを考えると、今回のこの性の面はやはり専門分野ですよ。ということは、今回の評価に加えて、有森委員や棚村委員のお話を聞きながら、具体的な言葉はちょっと事務局や評価部会員さんとも一緒に考えなければいけないと思うのですが、ただやれという任せきりになるのではなくて、何らかの支援も含めて検討して、そういった若年層、子どもたちにもっともって伝えるようにして行ってほしいなというのが何かこの文言に入ってくるといいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>ざっくりと今お話ししましたので、文に関しては事務局、評価部会、私も含めて考えますけれども、何となく内容はそんなイメージで考えているのですが、いかがでしょうか。</p>
有森委員	<p>有森です。議長のおまとめ素晴らしいと思います。具体的には、第3次評価の下から2番目の丸ポツが「小中高校生への性教育のあり方・内容を見直すときにきているのではないか」というのは非常に弱いので、今、議長がおっしゃったような「推進すべきである」というようなところに踏み入った表現がより望ましいと感じました。</p>
大堀会長	<p>棚村委員、いかがでしょうか。そんな感じで。</p>
棚村委員	<p>内容の見直しを推進する、見直しを推進するというのは変ですけども、「見直し必要がある」みたいな言葉がいいのではないのでしょうか。</p>
大堀会長	<p>そうですね。内容であったり、ツールであったり、人の支援なのかお金の支援なのか、何らかの形の支援をしっかりと見直してやっていただきたいということですよ。</p> <p>具体的な文章が事務局と評価部会と私のほうで少しまとめますので、そちらにお任せしていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>そのほかの面で、ご意見がなければ目標5に関しては、今言ったもの以外に関しては決定ということにさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>目標に関しては最後になりますが、目標6「女性に対する暴力の根絶と貧困等生活上の困難への支援」のところですよ。この評価に関してご意見・ご質問等ある方はおっしゃってください。嘉代さん、専門分野に近いかなと思うのですが、ご意見いかがでしょうか。</p>

嘉代委員	<p>特に質問等はありませんが、さまざまな窓口がある中で、警察も協力していきたいと思っています。</p> <p>話は違いますが、男性からの相談については、他の機関からお願いされることもあるので、相談体制の充実はしていただきたいと思います。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。突然、無茶振りしちゃいましてすみませんでした。</p>
棚村委員	<p>この文言的なことではなくて、私もご質問なのですけれども、相談窓口がいろいろあるということに対して、例えば地域の中で言う民生委員さんとか社会福祉協議会だとか、いろいろなところに、その情報が届いていて、相談があったときには、こういう相談窓口があるよというようなところにつなげるということ、例えば健康福祉課を経由してとか、そういうところのつながりはうまくいっているのかどうなのかというご質問です。</p>
事務局	<p>男女共同参画課の堀と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>まず、民生委員さんや社会福祉協議会への相談窓口の案内についてなのですけれども、年に1回、ちょうど11月になりますが配偶者暴力相談支援センターのリーフレットですとかカードといったものを民生委員さん、社会福祉協議会さんへすべて送付をさせていただいております。</p> <p>それから、男女共同参画課で年に2回、DV相談窓口の研修会と会議を開催しております、そちらについても社会福祉協議会さんにご案内を出しております参加をいただいております。その中で、関係機関の方々との顔つなぎですとか、相談窓口についての情報交換をしていただいて、実際にそういった方々がいらっしゃったときにご案内していただけるように活動を行っているつもりです。</p>
棚村委員	<p>ありがとうございます。</p>
大堀会長	<p>棚村委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>そのほかで、ご意見ないでしょうか。目標6に関しては、評価部会からいただいたとおり決定ということにさせていただきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>それでは、総評です。総評も一旦、事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>改めまして、総評のことにつきまして説明させていただきたいと思います。総評につきましては、目標1から目標6まで今、ご審議いただきました。その内容の総括をそれぞれ記載しまして、また目標の作成状況の総括も記載いたしました。</p> <p>それ以外の前文と後文があるのですけれども、前文については令和3年度に実施した事業の中で、新たな課題に向けて取り組んでいる事業を記載しました。また、後文につきましては、今回の評価で課題となったことや、新たな課題に向けた今後の取組みの姿勢などについてを記載しております。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。審議会資料の最初の表裏ですね。本当にこういう長文で集約していきながら総評にまとめていくという作業、本当に評価部会の方々もよくうまく書いていただいたなというふうに私は思っておりますが、もう少しこの辺、表現の部分であったり、ニュアンスの部分であったり、こういうふうにしたらいいのではないかみたいなご意見があったらいただきたいなと思いますが、</p>

	<p>いかがでしょうか。</p> <p>評価部会のほうから何か。この辺ちょっと難しかったんだよねみたいな、表現が難しかったなとかというところ、全然そんなことでもなくてもいいのですけども、何か言っておきたいことは。</p>
有森委員	<p>評価委員ではないのですが、有森です。発言させていただいてよろしいでしょうか。この総評については、コロナ禍といったところでの孤立といったところも触れられていて素晴らしいなと思って読ませていただきました。直接、この総評やこの表現に関係することではないのですが、全体をとおしてということを感じたことを述べさせていただいてもよいのでしょうか。</p>
大堀会長	<p>大丈夫です。お願いします。</p>
有森委員	<p>まず第1点なのですが、この審議会の委員の構成なのですが、さまざまなお立場の方が入られているのはあるのですが、もう少し世代的に、私、先ほど発言しましたように、これからのもう少し若い世代の方の視点というものも重要ではないかと思えます。特にDVの問題でありますとか、デートDVのことに触れられているので、それについてのソーシャルネットワークサービスを用いた現状については、かなり世代によって違いが生じているので、やはり彼らの使用する媒体において、この男女の問題というものが現実、何が起きているのかといったことを知る視点も必要ではないかなと感じているので、委員についての多様性といったことの世代差も考慮しなければいけないのではないかと感じているところが1点です。</p> <p>もう1点は、資料を拝見させていただきながら新潟市の中での、コメントにも書かせていただいたのですが、さまざまな部門でこの男女共同参画の課題がかかわることになると思います。このような審議会では異なる立場の先生方がご発言されていますが、新潟市の中でも役所を越えて、これについての意見交換や情報交換といったことをされる機会を設けられているのかどうかといったことをお伺いしたいなと思っておりました。その2点です。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。1点目は、私もこの審議が終わった段階で、その他のところでぜひ話してみたいなと思いました。</p> <p>2点目は事務局のほうで回答は可能でしょうか。</p>
事務局	<p>まず、この男女共同参画に関して庁内で意見交換を毎年やっているかということ、課レベルでのやり取りを体制を立ててやってはいないというのが現実です。ただ、人権であったり教育部門であったり雇用であったり、男女共同参画の計画にかかわりのある部であったり、課同士での連絡会議であったりとか、打ち合わせという形で部分的に毎年、情報共有ですとか情報交換を行っているという部分はありますけれども、全庁あげて各課との体制を立てての連絡会議を行っているというのは正直なところ、ない状況です。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。時間も人もというところで、全体ではこの審議会だけでもないですし、なかなか大変なのかなと思いますが、有森委員、今の回答聞こえましたでしょうか。</p>
有森委員	<p>分かりました。私は特に先ほども申しましたように、リプロダクティブに関しては、やはり教育の部門との情報交換をされていらっしゃると思うのですが</p>

	<p>も、そこでの協働はどのようになっていたのかなということが気になった点がありましたので、ご質問をいたしました。この問題は意識改革という点からも、やはり市役所全体で同じ価値観を持つといったこともされていると。というのも、職場でこれだけ啓発していこうということをやっているわけなので、まず新潟市が先頭にそういう活動をされるのもよいのではないかと思って発言いたしました。</p>
大堀会長	<p>非常に大切なことだと思いますので、ぜひその辺もまた課で検討していただいて、より浸透するような活動をお願いしたいなと思います。</p> <p>それでは、戻りまして、総評に関して、その他ご意見、それ以外でも問題ないのですけれども。原委員、お願いします。</p>
原委員	<p>お世話様です。今、有森委員はじめ皆様からも出ている部分と重複するのですけれども、相談する側の立場というのと、あとは要するに相談される側の立場と両方あるのは私も分かっているつもりで、例えばDVの話になってくると、ひとり親家庭という立場からすると、こども家庭課にならざるをえないのは、それは私もよく立場は分かりますし、一方で、DV、貧困は各区ごとにといえば男女共同参画課になるというのも分かるのですけれども、それとまたさらにはもっとヘビーというか、暴力沙汰になれば警察に直接言うケースもあると思いますし、相談するところというのはいっぱいあるけれども、反面、どこにいちばん始めに相談するのが適切かというのが意外に素人というとな変なのですけれども、いわゆる本当に相談者が切実な方であればあるほど意外に分からない場合が多々あるのではないかなど。</p> <p>例えばなのですけれども、ここの審議会とは別ですけれども、自殺対策を近年ずっと一生懸命言われていますが、自殺対策ではまずは聞いてほしいというところ、いのちの電話とか傾聴ボランティアがありますよとか、もしくは本当に薬の関係も絡んでいると医療機関、なんとかセンターみたいなところとか、いろいろこのケースはこのケースみたいな一覧的なパンフレットというところが大袈裟なのですけれども、こういうことはこっちに聞くといいよとか、悩みというものは複合的だから、一つの悩みということもないと思われるので、何とかがざっくりとした相談窓口の一覧みたいなものがあると、より。もちろん窓口がいっぱいあるのも、あればあるほどいいのしょうけれども、それを一覧にしないと、一つのところに非常に集中したり、逆にもっとほかにもかけるところがあるんだよということが分からなかったりすると勿体ないこともあるので、その辺が連携ということ、まるで連携が悪いみたいで、そんなことはないと思うのですけれども、その辺が一覧として通じるようになれば、よりよくなるのかなという印象を持ちました。これはDVのお話ではなくて一般論としてのところにも通じる話だと思いますが、失礼しました。</p>
大堀会長	<p>ありがとうございます。確かに電話しようと思つたときに、明らかにここだなというところ以外は、いろいろな相談窓口いっぱいありますよね、多種多様、県もやっていたり、国もやっていたり、市もやっている、みたいな形で、それをなかなか体系的にまとめるというのは誰がやるんだという話になってしまいますよね。でも確かにあったほうがいいですよ。市の中の相談窓口は、何かまとま</p>

	っているものはあるのですか。なかなか分野が違うからね。
事務局	市の中では、ぱっと見て一覧全部というわけではないのですが、ただホームページの中に相談窓口という項目があって、そこから人権だのDVに関することだの子育てだのということで、わかれていくと自分が相談する窓口はどこがいいのかなというのが探せるようになってはおりますが、一覧のように網羅的になっているものはないですね。
事務局	<p>全体ではないのですが、総評のところの最初の前文に書かせていただいた、今回、「女性つながりサポート事業」というものを昨年度、初めて実施しているのですが、これがコロナ禍で割りと女性がさまざまな課題困難を抱える事例というのが多く見られたと。そういった女性をサポートするために、どういったことができるかということで、内閣府のほうで新たに交付金を準備して始めた事業なのですが、それがやはり相談窓口はいっぱいあるのだけれども、そういった相談窓口につながらない女性たちがたくさんいると。だから「つながりサポート」という名前なのですが、窓口があるのにつながらないので、それをアウトプット型で相談をこちらから届けましょうというような事業の内容だったので、そういうことをするために、この事業の中で連携会議ということで、さまざまな相談機関の人たちを構成員として一堂に会して、それぞれ横の連携を取りながらサポートしていくと。その中には新潟市役所の中の福祉だとか教育だとか、こども未来部だとか、そういったところの関係課も入りまして、どのサポートができるのかという情報共有をするというような会議を始めました。</p> <p>その事業の中で、相談窓口カードというものを作成しまして、今ほど堀のほうがお話しした、すべての相談窓口を網羅すると、かえっていっぱいありすぎて分からなくなると思うのですが、関係する、女性が相談しやすい窓口、いくつかになるのですが、そういったところをカードのほうに落として、それを配布するというような事業を行ってございました。直接的な回答ではないのですが、取組みのご紹介ということでお話しさせていただきました。</p>
大堀会長	ありがとうございます。
有森委員	有森です。質問させてください。今回の事業が新潟市ということは承知しておりますが、また政令市であるということで独自に予算を組んでということだと思っておりますが、今ほど委員の方がおっしゃったように、ユーザーの立場からすると、例えばこの窓口で新潟市以外の方が相談をしても、それは市として受けてくださるのかと。というのも、新潟市に住所を置いていて、県外のどこかに行ったりということも女性の場合はあると思うのです。結婚とかいろいろパートナーの方の事情等といったところで、特にDVなんかの場合には避難をするといったこともあるかもしれないと。そのように県内でそういうふうに移動した場合、つながるといふ点において、新潟市の事業ですから、市内在住じゃないと受けませんかとか、そういったことではなく、どこにいても、その方がアクセスできるということを一覧という意味でもおっしゃったのかなと私は思ったので、その辺のことは行政の新潟市と県が密に連絡を取っていただいたりすること

	<p>で可能になるのかどうか。非常に県と新潟市といったところが行政の区分の難しさは分かるのですが、使う側からしたときにはあまりそれは分からない部分でもあるので、その辺の連携をぜひお図りいただくとよいなという、ユーザー視点からの勝手な発言でございますが、よろしく願いいたします。</p>
<p>大堀会長</p>	<p>ありがとうございました。非常に大切な意見だと思いますので、コロナ禍においても、そのような問題はすごく出ましたからね、はっきり言ってね、県、行政がやるのか、市がやるのかみたいところで。多分、その辺で大きく変わってきているのではないかなと思いますので、またさらなる努力を続けていただいて、やはりユーザー、一般の方々を助けていくというのが非常に大切なところだなというふうには思っております。</p> <p>総評にもう一回戻りますけれども、総評に関しては、ご意見がないということで、これで決定ということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>本当に評価部会が2回の予定が3回にということで、非常に時間と労力を使っていたいただいて、ここまでまとめていただいたお陰で迅速に決定することができたのではないかなと思います。杉原委員、田中委員、近藤委員、本当にありがとうございました。</p> <p>これで総評についての審議を終わらしまして、すべての審議が終わりましたので、これで審議を終わりにさせていただきたいと思います。ですけれども、審議会が終わる前に、先ほど有森委員からいただいた、世代の多様性、我々の任期は今期で終わりですよ。タイミング的には丁度いいですよ。そういった意味で、私もバトンタッチをして、実はファザージング・ジャパンにいがた、私、代表と書いてあるのですが、代表が代わりまして来年から正式に違う形で違う人間が、私より10歳ほどは若いかなと。私も団体活動していると若返りって非常に大事だなと思っておりますので、他の団体さんも含めて、若返りの審議会の委員さんが増えるようにという活動はぜひしていただきたいと思っておりますし、市から声をかけるうえでも、そういった、確かに問題の分野って高齢者も若年層もいろいろな分野で多岐に渡っていると思いますので、SNSの問題であったり、デートDVの問題であったり、働く育休を取っている男性の考え方であったりとか、多分、そういったものが今後の男女共同参画推進計画の面でも非常に大切だと思いますし、その視点で審議を進めていくということも大切だと思いますので、これはもう男女共同参画課にお伝えするしかないと思うのですが、皆さんのご意見ということで、できるだけ多世代での審議の委員の方々を今後、選定できるような何かしら考えを持って進めていただければなということで、皆さんよろしいでしょうか。</p> <p>これは意見として、どうしてもそうしろということとはなかなか難しいことだと思いますし、こういう難しい会に若い人に来てよと言っても、なかなか来てくれないのも多分、現実かなというふうには思うのですが、ある程度、知見もありつつ若い人の意見も聞けるような委員を作っていただきたいなということで、ご意見をまとめさせていただいて、言わせていただくということだけで終わ</p>

	<p>りにしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、今回の令和4年度第2回の男女共同参画審議会をこれにて終了させていただきたいと思ひます。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。皆様からご審議いただきまして、ほぼ第3次評価と総評の部分が固まりましたが、ご審議の中で、目標5の部分の第3次評価の表現につきましては、もう一度、会長、評価部会の皆様と調整をして固めていきたいと思っておりますので、今しばらくお願ひしたいと思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>固まりました後、調整後の第3次評価につきましては、12月に予定しております新潟市男女共同参画推進会議の庁内の会議でございますけれども、こちらのほうで報告をさせていただきたいと思ひます。また、委員の皆様から第1回の際も含めてですけれども、いただいたご意見が今後の庁内の事業実施のほうに反映されるように、庁内の関係課へのフィードバックにつきましても今後、事務局のほうで行いたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回新潟市男女共同参画審議会を終了いたします。委員の皆様、本当にどうもありがとうございました。</p>